

# きこえと補聴器 はじめのいっぽ

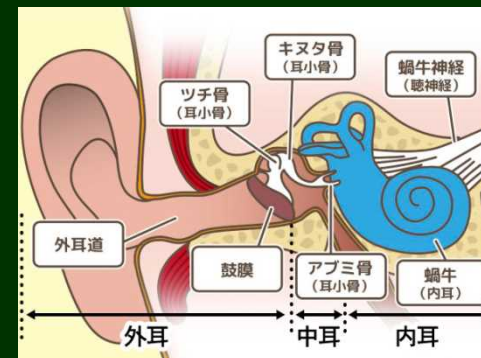
お母さん・お父さんと一緒にはじめの一步を踏み出すために  
きこえのこと、補聴器のことをやさしく解説します

大阪府立中央聴覚支援学校  
聴覚支援センター・早期教育相談

# きこえ方は人それぞれ違います

<https://l-s-b.org/>

耳の構造の一部分がうまく働かず、音や声がきこえにくい状態を難聴といいます。



難聴の程度によって、通常の会話音声がきこえにくい、ベルのような高い音がきこえない等、**様々なきこえ方**の人がいます。

きこえにくさを補うために、補聴器・人工内耳・手話・口話など色々な方法があります。

この方法でなければいけない、ということはありません。

# 赤ちゃんは小さな音には知らんぷり

きこえの程度はdB（デシベル）で表します。

かすかにきこえる音の大きさ(dB)がその人の聴力で、きこえる成人の聴力は0～25dBです。

新生児はきこえの反応が未発達なので、きこえる子どもでも60～70dBの大きい音でないと反応が見られません。

（ABRで測定する脳波には小さな音にも反応が出ます）

今できることは何か、焦らずに一緒に考えていきましょう。

# 補聴器



補聴器はきこえにくい音を大きくして、きこえを補う機器です。30～40dB以上の難聴の方が使用します。

初めて補聴器をつける時は**小さな音からきかせ始めます**その後少しずつ音を大きくして、その子の聴力に合わせた調整にしていきます。

最初は補聴器を嫌がってすぐに外してしまいます。

ゆっくりと関われる時間に片耳ずつでも構わないので、補聴器をつけることに慣らしていきましょう。

# 人工内耳



**聴力90dB以上で適切な調整**の補聴器を装用して**6カ月以上**たっても効果が見られにくい場合は、人工内耳の手術を検討することがあります。

初めて人工内耳をつける時も**弱い刺激から始める**ので、すぐに聞こえるようになるわけではありません。その後少しずつ刺激を強くして適切な調整にしていきます。

# 「きくこと」・「見ること」 どちらも大切にしよう

補聴器・人工内耳を適切な調整にするために、聴力検査で聴力を調べたり、きこえの様子を観察したりすることが大切です。

補聴器や人工内耳を装用しても、きこえる人と同じようなきこえ方になるわけではないので、**見てわかる方法**を併用することが必要です。



顔の表情



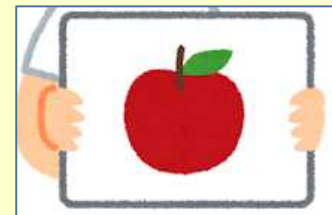
ジェスチャー・手話



実物



写真



絵カード

お子さん一人ひとりのきこえ方や成長に合わせた  
サポート体制を整えています。  
一人で悩まないでいつでも相談してくださいね。

おわり